

インドでの電動化の加速に向けた研究開発拠点をベンガルールに開設

Honda のインドにおける二輪車、パワープロダクツの研究開発を担うホンダアールアンドディ（インド）プライベート・リミテッド（本社：インド・ハリヤナ州 社長：内山幹雄）は、カルナタカ州ベンガルールに、「ソリューション・アールアンドディ・センター」を新たに開設し、本日開所式を行いました。

Honda は、2050年に全ての製品と企業活動を通じたカーボンニュートラルを目指しており、幅広い製品の動力源のカーボンニュートラル化に取り組んでいます。そして二輪事業においては、2040年代に全ての製品でのカーボンニュートラルの実現を目指しています。

一方、経済発展がつづくインドにおいては、2021年に開催された「国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）」で、インド政府が表明した「2070年までに温暖化ガス排出の実質ゼロの実現」への取り組みが始まるなか、インド市場において、Honda がお客様に選ばれ続けるためには、電動化に必ずだけでなく、既成の枠組みにとらわれない新たな価値を創出し、より魅力的な商品とサービスを提供する必要があると考えています。

ソリューション・アールアンドディ・センターは、“インドのシリコンバレー”と呼ばれるベンガルールで、研究開発企業の技術やアイデアを取り入れ“共創”するオープンイノベーションで、モビリティの先端技術をより早く電動車開発に取り込むとともに、ソフトウェアやコネクテッドサービスなどにも取り組みます。また地の利を活かした“エコシステム^{※1}”によって、新しいアイデアを持った企業と組むことにより、長期的な視点で、既存事業・商品の領域に留まらない新しいサービスや事業の創出を目指します。

さらにはHondaが掲げる「Triple Action to ZERO^{※2}（カーボンニュートラル、クリーンエネルギー、リソースサーキュレーション）」にむけたエネルギーの有効活用や、「交通事故死者ゼロ社会の実現^{※3}」に向けた交通事故の未然防止などの、社会課題の解決にも積極的に取り組んでいきます。

Honda はこれからも、さまざまな技術進化とイノベーションにより、Hondaらしい新たな付加価値を持つ製品を提供し、お客様に「自由な移動の喜び」をもたらしていきます。

※1 複数の企業によって構築された、製品やサービスを取り巻く共通の収益環境

※2 製品と企業活動を含めたライフサイクルでの環境負荷ゼロを2050年までに達成するための三つの柱

※3 2050年に全世界でHondaの二輪車・四輪車が関与する交通事故死者ゼロを目指す

■ホンダアールアンドディ（インディア）プライベート・リミテッド

| | |
|------|--|
| 会社名 | ホンダアールアンドディ（インディア）プライベート・リミテッド 英語：Honda R&D (India) Private Limited |
| 会社住所 | ハリヤナ州 デリー |
| 会社役員 | 社長 内山 幹雄 |
| 資本金 | 非公開 |
| 設立年月 | 2003年6月 |
| 業務内容 | 二輪車、パワープロダクツの研究開発を担う |
| 事業所 | <ul style="list-style-type: none"> ・本社テクニカルセンター ・グレーターノイダ・オフィス ・ソリューション・アールアンドディ・センター |

■ソリューション・アールアンドディ・センター

| | |
|------|---|
| 拠点名 | ソリューション・アールアンドディ・センター 英語：Solution R&D Center |
| 設立 | 2024年4月1日 |
| 業務内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・商品+サービスまで顧客体験価値の把握 ・IT×モビリティ先端技術・競合動向を探查 ・電動部品取引先の探查 |